

1. 件名「新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（119）」

2. 日時：平成29年4月14日 13時30分～18時25分

3. 場所：原子力規制庁 7階C会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

山口安全管理調査官、岩永管理官補佐、金子管理官補佐、津金管理官補佐、大塚安全審査官、小林（貴）安全審査官、近田安全審査官、皆川安全審査官、高嶋原子力規制専門員、竹内技術参与

（安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付）

堀田首席技術研究調査官、小城技術研究調査官

（安全技術管理官（地震・津波担当）付）

鈴木技術参与

事業者：

日本原子力発電株式会社：福山執行役員（発電管理室室長（許認可担当））

他12名

5. 要旨

（1）日本原子力発電から、東海第二発電所の重大事故等対策の有効性評価（格納容器破損防止対策）のうち、溶融炉心・コンクリート相互作用（MCCI）及び原子炉圧力容器外の溶融燃料-冷却材相互作用（FCI）の対策について、説明があった。原子力規制庁から以下の点について指摘を行った。

- MCCI及びFCIの対策におけるペDESTAL内の事前水張り有無の選択に当たって、デブリの冷却性も含めて重大事故等対策全体としてメリット／デメリットを整理した上で、対策に係る当該選択の考え方を整理した資料を提示すること。
- デブリの断続的落下を考慮したペDESTAL水位及びデブリ検知のための水位計、デブリ検知器及び気相部温度計について、コリウムシールド内の熱伝導や放射線環境等を踏まえた健全性について整理した資料を提示すること。
- ペDESTAL内に設置したデブリ検知器や気相部温度計等による監視によりペDESTAL水位及びサブクール度を制御することについて、事象進展や実現象の不確かさ等を踏まえても実現可能であることを整理した資料を提示すること。
- 低水深プールにおける水蒸気爆発について、当該資料の位置付けを整理した上で、その整理結果に即した内容の資料を提示すること。

- 炉外水蒸気爆発によるペDESTAL壁面及び床面のコンクリートのひび割れ等の評価について、構造健全性やMCCI及びFCI対策の成立性等の観点から整理した資料を提示すること。
- デブリの露出による格納容器への影響評価について、影響評価項目、評価方法及び結果を整理した資料を提示すること。

(2) 日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・ 東海第二発電所 ペDESTALでの物理現象発生を想定した場合の格納容器の健全性について
- ・ 東海第二発電所 MCCI、SE対応の方向性と現状把握